

作物名	水稻	県名	愛媛県	所属	愛媛県病害虫防除所
調査・研究課題名			担当者	大早佳津・森口一志	
コブノメイガの性フェロモントラップの形状比較と発消長の把握					

1. 目的

コブノメイガは性フェロモンが同定されており、フェロモントラップによる発生予察が行える状況にある。しかし、従来のSEトラップを利用すると誘殺数が少なく発消長が把握しにくいとされており、異なる形状のトラップの適用が試みられている。

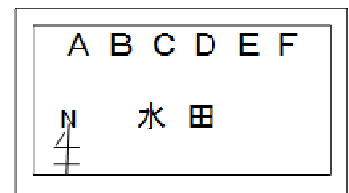
そこで、コブノメイガ密度が高まる普通期水稻において、既報の成果をもとに各種トラップを製作し、得られた誘殺推移と見取調査や掬い取り虫数推移との比較から本虫の発消長を把握する。

2. 調査（試験）方法

1) 設置場所：宇和島市三間町土居中の現地圃場

2) 性フェロモントラップの設置と調査法

3種の形状の異なるトラップ（図1～3）を10m間隔に水田内部の草冠部（稲の最も高い位置）へ設置した。2013年7月8日～8月21日の間、1トラップ2反復、約5日間隔で成虫の誘殺数を調査した。



トラップ設置場所

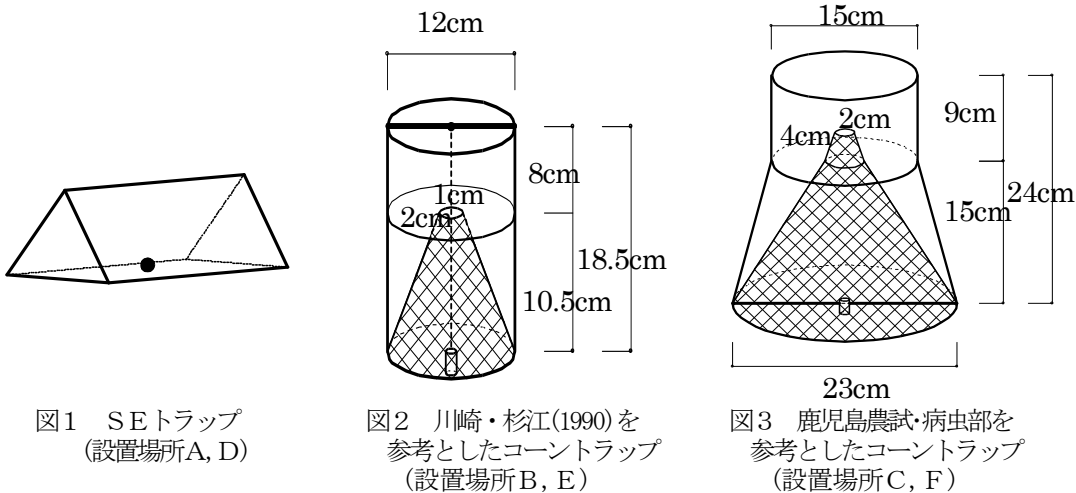


図1 SEトラップ
（設置場所A, D）

図2 川崎・杉江(1990)を
参考としたコーントラップ
（設置場所B, E）

図3 鹿児島農試・病虫部を
参考としたコーントラップ
（設置場所C, F）

3) 見取り調査

トラップ調査日に、水稻100株当たり見取り調査を行い、上位2葉の被害葉数を数えた。また、捕虫網により100回掬い取りを行い、成虫数を調査した。

3. 結果の概要

1) トラップ形状別誘殺数の比較

SEトラップの誘殺数が最も多く、設置場所AとDあわせて76頭誘殺された（図4）。

川崎・杉江（1980）を参考にしたコーントラップの誘殺数はBとEあわせて13頭であった。鹿児島農試・病虫部を参考にしたコーントラップの誘殺数はCとEあわせて1頭となり、最も少なかった。（図4）

SEトラップの誘殺ピークは7月第2半旬と8月第1、2半旬であった（図5）。

2) 発消長把握

調査期間を通して水田で被害株がみられたものの、掬い取りによる成虫捕獲は7月第4半旬の1頭だけであった（表1）。

4. 主要成果の具体的数字

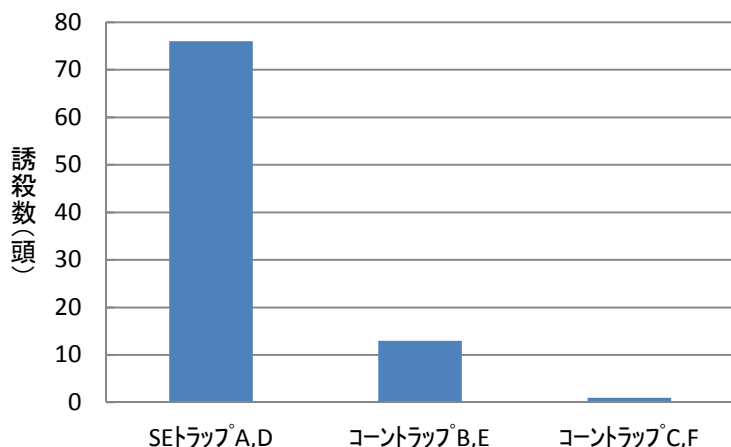


図4 トラップの形状の違いによる誘殺数比較
(2013年7/8~8/21)

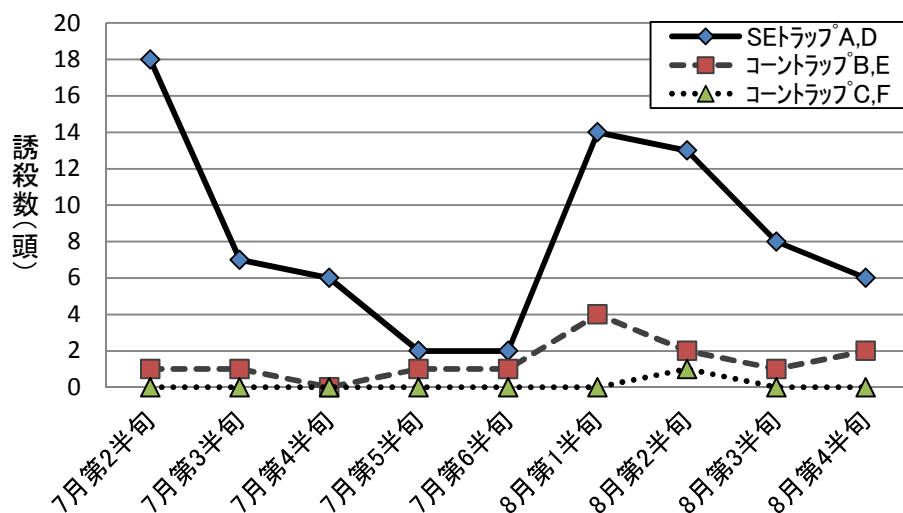


図5 トラップ形状別コブノメイガ成虫の誘殺消長

表1 コブノメイガの掬い取り虫数及び水稲の被害株・葉数

半旬	掬い取り調査		水稲の被害調査	
	虫数(頭)		被害株数	被害葉数
2	0		0	0
3	-		-	-
7月				
4	1		6	6
5	0		6	7
6	0		4	4
8月				
1	0		17	17
2	0		6	8
3	0		5	5
4	0		4	4
合計虫数	1		48	51

注: 掬い取り調査は捕虫網100回振り、被害調査は水稲100株当たりの見取り調査。
-は未調査を示す。